

保育計画成果報告書

法人名等	公益社団法人子ども情報研究センター
施設名	はらっぱ舎
報告者（役職）	南田安紀子（ 施設長 ）
住所・連絡先	大阪市港区市岡元町2-5-26
	☎ 06-4301-7010
	E-mail kyoudou@kojoken.jp

○タイトル（保育計画）

「どろんこアート」豊かに育つ権利の保障を

○主な助成備品

砂場

1. 保育計画策定の目的

子どもが気持ちの解放を得ながら、あそびを創造する力を育むことを目的に計画しました。どろんこあそびは、単に感触をたのしむだけでなく、カタチを変えることのできる、子どもにとっては身近な素材での創作活動です。また、アートは出会いによって生まれ、出会いの中で感じ、表現することだと考えます。「どろんこアート」のできる場合は、子どもが人とのつながりの中で、豊かに生活できる環境であると捉えています。

2. 具体的な実施内容

- ① 1m四方の砂場を2×3mに広げる
- ② 子どもが自己表現できる場としての砂場
- ③ 子どものコミュニティとしての砂場

3. その成果と評価

① 日曜日に重機が入りました。月曜日には深く掘られたスペースを子どもも保護者も気にかけてながら登園し、できあがりを楽しみにして一週間を過ごしました。いよいよ砂が入る瞬間には、子どもも職員も窓に顔を押し付け、トラックの荷台から流れる砂を見て、歓声を上げていました。砂場を広げる工程を保護者にも見ていただくことで、子どもの遊びに興味と期待をもっていただけました。

② 砂に加えて水という、自由自在にカタチをかえる素材を通して、子どもたちの創造的なあそびが広がりました。これまで砂に興味のなかった子どもも、開放的なスペースに自分の居場所をみつけることができ、容器に入れたり出したりします。砂の冷たさ、温かさ、

重さなどを手のひらや指、裸足で感じています。砂場遊びをきっかけにして、公園でも土にふれることが好きになった子どももいました。



③玄関前に砂場があることで、園内に砂の温もりが加わりました。砂を触っているだけで子どももおとなもころが落ち着きます。大きな砂山を保護者にも見ていただくことから、親子の会話がはずんでいます。日々、いろいろなごっこあそびが展開し、子どもどうしのやりとりがにぎやかです。夏には、砂の傾斜を利用してブルーシートの上を、泡で滑りやすくして、スライダーを楽しみました。



4. 今後の課題と展望

子どもがあそぶ権利を保障することが、わたしたちおとなの役割であると改めて感じています。子どもの生活の充実を図ることで、子どものなかにあるものを引き出すことができ、子どもの育ちが豊かになっていくのだと思います。

コンクリート社会に暮らすわたしたちにとって、朝夕はブルーシートで覆われていても、気持ちが和む砂場です。子どもはシートの上でジャンプし、寝転がり、大空を見上げて大の字になっています。おとなも感触のよいシートの上を歩きたくなる時があるほどです。砂場が広がることで、砂場の周りの花壇や虫と触れる機会も増えました。年長の子どもがつくるアートを、年齢の低い子どもがまねて、異年齢交流のきっかけにもなっています。送迎時に数組の親子が戯れ、にぎやかな声が聞こえる日々です。

玄関に砂場をつくらせていただいたことから、人がつながる豊かな生活環境が一つ整いました。これからも、子どものあそびから人がつながることに取り組んでいきたいと思っています。

以上